

〇●〇視覚障がいについて知ろう〇●〇

視覚障がいとは、視覚機能に障がいがあるために、全く見えなかったり見えにくかったりする状態をいいます。

見えにくい状態を「ロービジョン」と言い、視力が低い、見える範囲が狭い、光をまぶしく感じる、明るいところではよく見えるのに暗いところでは見えにくい、特定の色がわかりにくいなどがあります。

見えにくさで特に困難を抱えている人は、外出時に白い杖を持っています。

ロービジョンの人は、文字や図の色・大きさを工夫すれば見える場合がありますが、一時に大量の文字を読んだり、書類などの特定の箇所に文字を書き込むことが困難なことが多いです。

困っていること

- ・ 慣れない場所での一人での移動が困難です
- ・ 点字ブロックは危険を知らせる道しるべとして、あるいは特定の目的地へ安全に誘導するために敷設されているので、その上に、物や自転車などが置かれていると困ります。
- ・ 周囲の環境を、音声や手で触ることなどで情報を得て、理解しています。また、視覚障がいのある人が全員、点字が読めるとは限りません。
- ・ 人の視線や表情が理解できず、視覚的コミュニケーションに苦勞します。

- ・ また、セルフレジやコンビニに設置されているタッチパネル式の機械は音声や点字のガイドがないので、操作できません。

☆「見えないからできない」のではなく「見えなくても教えてもらえればできる」ことはたくさんあります。

サポートするときのポイント

- ・ 前から近づき、自分から名乗り「〇〇です。よかったらお手伝いしましょうか」など、声をかけてみましょう。
- ・ 「あちら」「これ」と表現しても理解できません。実際の方向、長さ、大きさなどを具体的に説明しましょう。
- ・ 誘導するときは自分の肩や腕につかまってもらい、障がいのある人のペースに合わせて進みましょう。

災害時にサポートするときのポイント

- ・ 障害物がないか等周囲の状況を確認しながら、避難場所へ誘導しましょう。
- ・ 避難先においては、連絡事項等が書かれた掲示物や配布物の内容を読むことができません。内容を読み上げ、確実に言葉で情報が伝わるようにしましょう。
- ・ 移動が困難となるため、トイレ等に行きやすい場所を確保するようにしましょう。